

# 「ミュータンス菌」の多い人、少ない人

自分や子どもの口の中、虫歯の原因菌の多さに合わせたケアを

歯並びとかみ合わせが乱れている場合は、ケアしやすくすることも大切

## シリーズ・歯の健康相談



(A) 10歳男児：前歯の重なりがあり、奥歯のかみ合わせも乱れていた。磨きにくい歯



(B) 治療により前歯・奥歯ともに整い、歯磨きしやすくなり、将来の虫歯や歯周病のリスクも減った

「虫歯」って、同じようにブラッシングやケアをしていても、なりやすい人となりにくい人がいますよね。なぜ？ 今回の歯の健康相談では「虫歯のできるわけ」とその予防について、ほりい矯正歯科クリニック・堀井和宏さんに聞きました。

「歯を失う最大の原因は『虫歯』と、以前は歯槽膿漏(のうこう)といわれた『歯周病』。いずれも細菌の感染でおこる病気です。だから、一番の予防は、その細菌の塊である歯垢(プラーク)をブラッシングで取り除くことです」

「でも、あまり磨かなくても虫歯になりにくい人がいますよね。虫歯の

なりやすさに個人差があるのはなぜでしょう？

「個人差が生じる要素の1つに、虫歯の原因菌『ミュータンス菌』の量の違いがあります。磨いているのに虫歯になりやすい人はミュータンス菌が口の中に多く、磨いていないのにそれほど虫歯にならない人はもとも口の中のミュータンス菌が少ない場合が多いので

「はい。ブラッシング方法や生活上気を付けるポイントは、人によって異なってきます。

例えば、子どもの歯が重なって生えているような場合は要注意(写真A)。歯が重なって磨きにくい部分を何年も放置すれば、その歯を含め、隣の歯も虫歯や歯周病になるリスクは高いと考えられます。

「最近はその虫歯も減った気が…」

「ええ、ここ数十年で、虫歯のある子や子どもも人あたりの虫歯の本数は著しく減少しています。ただし、虫歯も歯周病も細菌の感染で起る病気ですから、小さい子がいる家庭は、大人も自分の口の中に細菌が多いか

「歯を失う最大の原因は『虫歯』と、以前は歯槽膿漏(のうこう)といわれた『歯周病』。いずれも細菌の感染でおこる病気です。だから、一番の予防は、その細菌の塊である歯垢(プラーク)をブラッシングで取り除くことです」

「個人差が生じる要素の1つに、虫歯の原因菌『ミュータンス菌』の量の違いがあります。磨いているのに虫歯になりやすい人はミュータンス菌が口の中に多く、磨いていないのにそれほど虫歯にならない人はもとも口の中のミュータンス菌が少ない場合が多いので

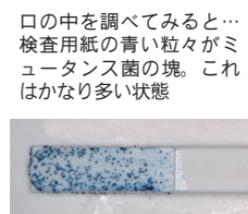
「はい。ブラッシング方法や生活上気を付けるポイントは、人によって異なってきます。

例えば、子どもの歯が重なって生えているような場合は要注意(写真A)。歯が重なって磨きにくい部分を何年も放置すれば、その歯を含め、隣の歯も虫歯や歯周病になるリスクは高いと考えられます。

「最近はその虫歯も減った気が…」

「ええ、ここ数十年で、虫歯のある子や子どもも人あたりの虫歯の本数は著しく減少しています。ただし、虫歯も歯周病も細菌の感染で起る病気ですから、小さい子がいる家庭は、大人も自分の口の中に細菌が多いか

「最近はその虫歯も減った気が…」



「歯科矯正治療は、歯並びを治し、かみ合わせを整えることで、虫歯や歯周病をはじめとする病気にかからないよう環境を整え、歯や口の中を健康に保ち、いつまでも自分の歯でかめるようにするための手段であると思います」という、ほりい矯正歯科クリニックの堀井和宏さん